

入学者のことば

歯学部に入學して

歯学科1年 江口香里



正直、入試を終えた帰り道、もう二度と新潟に来ることはないと思っていたので、歯学部の合格通知が家に届いたときにはすごく喜んでいたので、今でもはっきりと覚えています。

そして4月に歯学部に入學してから早くも4ヶ月が経とうとしています。

新潟に来てからまだ日も浅く、友達もまだ一人もいない状態で迎えた入学式は、緊張というよりはむしろ不安な気持ちでいっぱいでした。慣れない土地での一人暮らしが始まるし、周りの人たちはみんな自分よりもしっかりして見えたし、何より、この人たちと6年間うまくやっていけるのだろうかという不安がよぎりました。しかし、そんな心配は全く必要ありませんでした。歯学部は1学年がたったの60人しかいないということもあって、すごく団結力があるし、また私の場合、入学式でたまたま近くに座っていた女の子たちとすっかり仲良しになりました。しかも、そのうちの3人とは偶然にも部活まで一緒です。本当に偶然とはすごいものです。

ちなみに、部活はバドミントン部と茶道部に入りました。茶道部のほうは後期からの参加ということで、今はバドミントン部でのみ活動をしているのですが、週3回の練習では物足りないと感じるほど、とても楽しく、充実しています。

また、充実しているのは勉強面も同じです。特に早期臨床実習は、普段一般教養を学んでいる私たちにとってとても充実したのになっています。この実習では、自分も白衣を着て、ネームプレートをつけて、実際の医療現場で患者様や病院

スタッフさんに触れながらいろいろなことを学ぶことができます。そのため、将来、医療人として働くことを目指している私たちにより刺激を与えてくれています。

新潟大学歯学部に入り、友達の面でも勉強の面でもこのように充実した楽しい大学生活を送ることができて、今、本当によかったなあと思っています。この気持ちを忘れずに、6年間目標に向かってがんばっていきたいと思います。

新潟大学歯学部入学にあたって

歯学科1年 笹嶋真嵩



新潟大学歯学部に入學してからすでに三ヶ月以上経過したため、大学生活にもだいぶ慣れてきました。しかし今だから言えるのですが、この大学に入ることに

なるとは、高校で受験期に突入した当初はまったく考えてもいませんでした。新潟出身なので新潟大学というものは最も身近なはずなのですが、「どうにかして地元を出て一人暮らしをしたい、地元はいやだ」という思いから、絶対に行くことは無い大学だ、と心に決めていました。

しかし様々な理由から一転、受験することになり、結果として合格してしまったのです。なので、最初のうちは本当の志望大学をあきらめたことに対する後悔と、なんとなく受験して合格してしまったことに対する罪悪感から、少し悩んだ時期もありましたが、今は後悔はほとんど消えて、むしろ新潟大学歯学部に入學できたことを素直に喜ぶ気持ちのほうが強いです。せつかく合格できたのだから自分ができる限りのことをし、「歯学」という大変重要な分野について、まずはしっかりとし

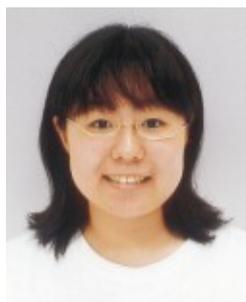
た考えを持てるようにしていきたいです。

勉学についての事以外では、入学後、部活としてゴルフ部と水泳部に入部しました。現在の状況は、夏休み前の回避不可能なテストと嫌なタイミングで出されるレポートに怯えながらも、夏のデンタルに向けて練習中です。今年入賞することはまず不可能だと思いますが、在学中に一回だけでも入賞できるよう、勉学をおろそかにしない程度に、また時にはそれを犠牲にするくらい気合を入れて頑張りたいと思います。少なくとも、途中で投げ出してしまうようなことだけは避けたいです。

最後に、新潟大学歯学部の特徴の一つである早期臨床実習ですが、患者役・患者付き添い・治療見学の各実習とも様々なことを得ることができました。特に付き添い実習では実際の患者様との会話などにより、歯科医師にとって患者様とのふれあいが、いかに重要であるかを再実感でき、大変貴重な経験だったと思います。この経験を今後の長い学生生活6年間、また、将来にも生かしていこうと考えています。

口腔生命福祉学科に入学して

口腔生命福祉学科1年 安 齋 さや香



口腔生命福祉学科二期生として入学し、既に一学期が終えようとしています。

「歯学部」としてただ口腔のことを学ぶだけではなく、福祉のことも同時に学んでいこうとするこの学

科。昨年新設されたばかりなので、授業内容や卒業後の進路のことなど入学前から大きな期待と少しの不安が入り混じっていました。

実際入学してみると勝手感がわからず戸惑うことも多々ありました。しかし、昨年一年間で先輩たちが築き上げてくださった土台があり、また先生方も優しく、何とか四ヶ月間過ごすことができました。全学共通の科目を始め、早期臨床実習やスタディスキルズの授業や実習内容も濃く、興味深

いものがたくさんあります。特に早期臨床実習はこれから歯科衛生士、そして社会福祉士を目指す者として学んでいくのであろう私たちにとって、患者さんと直接接したり、様々な治療を見学できたり、とても貴重な実習でした。

まだ二年目のこの学科。学科として手探りの状態の部分もあると思います。先輩方の土台を下に私たちが過しているように、来年入ってくる新入生たちが今年一年間で私たちが築いたことの影響を受けることを考えると不安になりますが、皆で学科を盛り上げていきたいと思っています。

歯科衛生士としての知識だけではなく、また社会福祉士としての知識だけではなく、両者の知識と技術を総合的に活かせる職業とは何なのか、四ヶ月経とうとしている今でも模索中です。折角様々なことを学べるのだから、学んだことをできるだけフルに活用していきたい、と私は思います。正直、まだまだ不安なことだらけです。学科を盛り上げていこうと言ってもどうしたらいいかわからないし、二年、三年となるに連れて専門科目も増えてきます。しかし、この学科に入ってよかったと思っています。他では得られない貴重な体験をこの四ヶ月の間に沢山してきました。今感じる不安やプレッシャーが自信に変わるようにこれから頑張っていきます。

口腔生命福祉学科に入学して

口腔生命福祉学科1年 今 西 勇 人



この学科に入ってはや三ヶ月。一人暮らしという新しい生活にもずいぶん慣れて、部活や勉強、バイトにと大変充実した毎日を送ることができるようになりました。今まで一人暮らし

というのは経験したことがなく、初めはこの生活が自分ひとりの力で送っていけるか少し不安でした。しかし、大変親しみやすい先輩方やいつでも相談に乗ってくれるやさしい先生方のおかげでその不安は無くなりました。それに、今は自分の

やりたいことが見つかって、この学科に入ることができて自分はとても幸せだなあとさえ思っています。

元々、私は将来歯学部に入って福祉系の仕事はできないものかと考えていたので、この口腔生命福祉学科は自分にとってまさに神の思し召し(笑)でした。しかし、この学科は普通の人だったら全然聞いたことのない言葉の響きで、「航空生命福祉」と勘違いされ、空でも飛ぶのかと言われることもしばしばあります。さらには、「口腔生命福祉学科？ なんじゃそりゃ？ 歯医者さんになるところじゃないの？ いったい何をするとお？」と親や高校の時の同級生、はたまた進路指導の教員にまで全く同じ質問をされます。私はそんな時にいつも、「福祉において口腔機能の面からケアを考えていくような人材を育成するところですよ。」と言っています。この学科は、これからの時代を先取りした学科だと思います。なぜなら、高齢化が進み福祉が注目を浴びている現在ですら、歯科衛生士で福祉の分野に行く人は大変少ないと聞きました。それに、福祉施設等では食事や入浴などに重点がおかれ、口腔ケアというのはあまり重要視されていないからです。実際、私の祖父も口腔ケアが行き届かなかつたらしく、最終的には舌癌で亡くなりました。面接でありきたりの志望動機かもしれませんが、自分の祖父のような人をなくすためにはどのようなことを学んでいけばいいかをよく考え、この学部にいる間しっかりと勉強し、できる限りの知識を吸収していき、四年後には一人の医療人となれるように頑張っていきたいと思っています。

大学院に入学して

歯周診断・再建学 山宮 かの子



月日が経つのは早いもので、私が新潟大学大学院に入学して、5ヶ月が過ぎようとしています。この5ヶ月間を振り返ってみますと、毎日が想定外の出来事の連続で、一喜一憂していたように思います。4月に念願の歯科医師免許を手にし、「山宮先生」と呼ばれ、喜んでいたのも束の間、実際は「先生」とは名ばかりで、臨床面においても研究面においても、よちよち歩きのひよことしての日々が始まりました。思い返せば、一年前、最も興味があった歯周病をもう少し深く勉強してみたい、世界を見てみたいという思いから、歯周診断・再建学の大学院生になろうと決意したのでした。あれから、一年経って、臨床面では、奥田先生、研究面では、歯科基礎移植・再生学の川瀬先生、硬組織形態学の大島先生にご指導いただいています。私の一日は、マウスの体重測定からスタートし、実験ノートを書いて終わります。マウスの経口投与ができないと、動物実験施設で2時間泣きながら、経口投与の練習をしたこともありました。マウスが死んで、落ち込んだこともありました。細胞がすくすく育ってくれたときは、愛おしく感じました。初めて、切片を作ったとき、HE染色をしたときは感動しました。歯周手術をしたときは、少し自信がつかしました。まだまだ、世界は遠く感じますが、日々与えられた課題をこなしていけば、いつしか明るい未来が開けると信じています。最後に、なかなか自立しようとしないう私を陰ながら支えてくれる両親に感謝します。厳しくも温かく研究者として育ててくださる川瀬先生に感謝します。また、私が大学院に入学することを決意したときから、大学院試験の英語の添削を始め、親身になって相談に乗ってくださり、奥田式ステップアップ学習法で様々な治療の機会を与えてくださる奥田先生に感謝します。これからも、ご指導・ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。

大学院に入学して

歯科矯正学 小原 彰 浩



夜11:00過ぎ、そろそろ帰ろうかと4Fまで階段を上がる。僕が矯正科に所属してから4ヶ月経ち、少しはこの生活にも慣れてきた気がする。最初の頃は新しい環境に慣れるのと次々と教わる仕事を覚えるので精一杯だった。大学院に入って、ということだから本当ならば研究がどうかという話題が良いのかもしれないけれどもまだ、研究についてははじめていない。今は外来に出て勉強をしている毎日である。最近、新人教育などが始まってきて、勉強すること、やるべきことがどんどん増えてきた。大変で失敗もたくさんあるけれど、でも僕にとっては何よりこの学ぶことが多い充実した日々が楽しい。みんなはどうしているのかな。親しい友人達と話すと、それぞれ大変なことだらけだけど目標もって頑張ってい

るらしい。負けじと頑張ろうという気になる。いい仲間だ。正直に言えば就職した人、研修医の人と自分を比較して考えてしまうと少し焦ることもある。何より彼らは臨床で患者を診ている分違うというか、頑張っていてすぐ見えてしまう。一方、僕はといえば、矯正の基本の部分から学び始めたばかりで一人前に患者を診ることができるまでにはまだまだかかりそうだ。でも僕は矯正をしっかり勉強したくて矯正科に残ったのだし、この大学院にいる機会に大いに学んで行きたいと思う。まだまだ、矯正も歯医者も駆け出しな僕なのでだいぶ面倒をお掛けすると思いますがこの場を借りて、先生方よろしくお願いします。僕にも、1歯科医として、矯正として、学びたいこと、やりたいこと、目標がいっぱいある。今すぐにできないこともたくさんあるけれど、目標に近づこうと努力する、その気持ちを持ち続けることが大切、自分に言い聞かせてこれからも毎日を頑張っていきたいと思う。後で振り返ってみてもこの大学院で学んだ日々が最高のものであったと思えるよう日々努力していきたいと思います。

